2021 年 1 月

学 校 法 人 東 放 学 園

東放学園音響専門学校　殿

東放学園音響専門学校

学校関係者評価委員会

2020(令和 2)年度　学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員

〔学校運営に関する有識者〕(委員長)

佐久間　義彦	学校法人東放学園　元理事 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 一般社団法人　日本ポストプロダクション協会　理事 一般社団法人　全国放送派遣協会　顧問　前専務理事

〔就職先の企業および業界関係者〕

大和　靖典	アオイスタジオ株式会社　スタジオ技術部　ポストプログループ

〔保護者、兼、就職先の企業および業界関係者〕

福本　城二	株式会社　エス・シー・アライアンス　代表取締役専務

〔高校の教員〕

竹内　一仁	東京都立王子総合高等学校　2 年次主任　主幹教諭

〔卒業生〕

菅原　英樹	株式会社パワープレイミュージック　マネージャー 2003 年　音響研究科　音楽著作権ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽ　卒業

2. 事務局

〔学校教職員〕

酒井　努	東放学園音響専門学校	校長
和田　一夫	同	教務教育部　部長
青柳　高広	同	学務管理部　部長
阿部　純也	同	音響技術科　学科主任
佐野　僚	同	音響芸術科　学科主任
久村　英一	同	学務管理部(書記)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

①2020 年 11 月 14 日(土)10:30～12:00　東放学園音響専門学校　清水橋校舎　3 階 3S3 教室

4. 学校関係者評価結果

評定基準

4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

Ⅰ. 重点目標について

【学習成果の可視化】	
コメント	評定
・目標達成チェックシートによる可視化の成果としては、学生に対する各教員からの対面によるアドバイスが必要である。 ・継続中の目標達成チェックシートは、学生と教職員・講師間での共有情報として学修成果を上げる良いツールであると言える。 ・目標達成チェックシートの導入契機が、大リーグ大谷選手の目標達成シートだったとのことで、学生自身が在学中や卒業後の目標を決めていくチェックシートとして、今後も技術・知識の習得に向けていくように活用して貰いたい。 ・目標達成チェックシートによる可視化は有効であり、各々学生の達成度が理解出来ると思われる。また学生側も同様で、嘘を書かないこと、正直に書くことが次へのフォローアップに繋がると言える。 ・コロナ禍でなかなか進めにくい項目ではあるが、このような時だからこそ可視化は重要だと思う。 ・昨年度は目標達成チェックシートを導入して学習成果の分析にとても有効であるものの、達成しているにも拘わらずシートに「○」を付けられない自己肯定感の低い学生がいることが課題であると指摘された。今年度は運用 3 年目となり、以前より学生も書いているとのことである。これはチェックシートが有効になって来ていると判断出来ると言えよう。今後は更なる改良を行い、より有効になるように工夫していくことを望む。 ・大リーガー大谷選手の目標達成シートは「マンダラート」といい、紙などに 9 つのマスを用意し、それを埋めていくという発想法の一種であり、思考を深めていくことが出来る。本校でも「課題研究」の授業で研究テーマを決める際に取り入れている。 ・可視化することはとても良いことかと思われる。 ・苦手なところをきちんと学生自身が把握出来る体制の強化は必要かと思われる。	4

【カリキュラム再構築(3 カ年)とアクティブラーニング化】	
コメント	評定
・知識教育だけでなく、職業に結びつけた教育を行う点は評価出来る。 ・カリキュラムマップを学生に理解させ、学生の能動的な発信を見逃さないようにするには、授業内容や授業方法の改善も含め、教える側のスキルアップが必須になると言える。 ・学科毎の分科会に於いては、学校側の進めたい意向が講師間で共有・摺り合わせが行われており、無駄を除きながら効率的に授業を行う環境が整備されつつあると言える。 ・アクティブラーニング化への途上だと位置づけ、根気良く実施していくことが重要だと思う。またカリキュラムの再構築は常に実施した方が良いと思う。 ・カリキュラムマップの作成は授業がどのような仕事に役に立つのかを理解させるのに有効であり、結果学生のカリキュラム理解に繋がる。更にカリキュラムマップは高校生にも有効であると考えられる。 ・今回のコロナ禍によりオンライン授業が推進されたとのことだが、オンライン授業が他の教員の授業を見学しやすい利点があるとのことである。また互いに工夫している点が見えるのでアクティブラーニング化に活かせればと考えているようである。オンライン授業に関しては高校でも取り入れたい手法であり、今後の参考にさせていただきたい。 ・アクティブラーニングの授業方法は複数の学生が互いに意見を議論し合う授業形態であり、密になりやすいので、このコロナ禍において敬遠されがちである。この授業形態を実践するには感染予防の徹底を実施しなければならない。 ・学生に対しても大切であるが、教員に対する研修も時代に合わせて行う必要があると思われる。 ・学生情報の共有は大切だと思うので、より教職員間での共有、相談する流れというものを作られたら良いかと思う。	3

【授業評価の促進と有効利用】	
コメント	評定
・講師会の内容改善、意見の抽出は良いと思う。学科目標を目的に集約しており、講師間のより深い理解が可能である。 ・授業評価は、学生から見られていると共に、教職員間でもオンライン上の授業内容が閲覧可能になったことで、各教職員への刺激として、授業内容や授業方法の改善・向上に繋がる良い取り組みであると言える。 ・授業評価の設問見直しは良いと思う。今後継続的に考えることを前提にした方が更に良いと思う。またPCDAが良いのか、OODAが良いのか、学校に合ったものを取り入れ、教職員・学生共に意識付けをすることが重要だと考える。 ・昨年度は授業評価アンケートの実施をして集計することだけで終わっていたとのことである。今年度は講師会の分科会において非常勤講師に理解してもらう工夫がなされたとのことである。カリキュラムマップを利用して教職員も相互に連携出来るようになり、近い領域では無駄の無い授業内容を設定出来るようなった。 ・昨年度同様、授業評価アンケートは教員に対する「好き・嫌い」等で評価させないように、予め評価用紙の質問等を工夫する必要がある。人気投票的になってしまうと何も意味もなさない。 ・授業評価を更にブラッシュアップ出来る要素はあるのではないだろうか。 ・授業評価アンケートシートを基に面談を実施しても良いかと思う。	4

Ⅱ. 評価項目別取組状況について

基準1. 教育理念・目的・人材育成像

コメント	評定
・教育理念を軸として、学科戦略表に学校・音響技術科・音響芸術科毎のコンセプトも明確になっており、今後も継続して取り組んで貰いたい。 ・教職員が教育理念等をより具体的に学生に対して伝えていく努力も同時進行で行って欲しい。 ・学生、保護者に解りやすい文章で短くまとめる方が良いと思う。また時代に即して人目を惹く(キャッチ―)表現で見せた方が良いと思う。 ・学科戦略表により具体的な目標や育成人材像を明確にしている。カリキュラムや学生指導、進路指導等の重点項目を示されており教職員に周知するのに分かり易い。 ・今後も継続して更新していくことが大切であると思われる。	3

基準2. 学校運営

コメント	評定
・5 か年事業計画と共に単年度の事業計画も策定されており、社会情勢や働き方の変化にも柔軟に対応出来ている。 ・昨年度とは違いコロナ禍での運営には苦労されたのではないだろうか。在校生は今の時期にしか在籍しないので、卒業時まで暖かく見守ってあげて頂きたい。 ・学校運営に関しては 5 か年事業計画に基づいて取り組んでいるとのことであるが、しっかりと運営方針を定めていると判断する。 ・時代に即した働き方をし、それをよく見せることが今後の人材発掘に繋がると思われる。	4

基準3. 教育活動

コメント	評定
・コロナ禍での Web 教育の在り方を再考してみては如何だろうか。 ・就職浪人を対象とした補講・補習を行う研究科的な学科の設置が必要である。 ・教職員には学科戦略表や授業評価アンケートが、学生には目標達成チェックシートや各種検定・資格取得の提示がされており、具体的に行っていると言える。但し教職員のスキルアップの為の研修参加を後押しする環境作りは、今後早急な課題と言える。 ・時代に即したカリキュラム構築を進めており良いと思う。授業評価アンケートは参考になると思うので今後も是非続けて頂きたい。 ・このような時期だからこそ教職員・学生共にモチベーションを保てるよう、マクロな視点で見渡せると良いと思う。 ・専門分野に関連した研修等に参加したり、関連企業との交流等を多く実施したりすることで、教職員の資質向上を促進している。教職員の資質向上は学校であればどのカテゴリーでも同様であり、研修への参加が非常に大切である。特に新しい技術取得が必要な分野であれば尚更大切である。高校の教員も同様に研修を充実させることを目標としている。 ・コロナ禍でなかなか思うようにいかないかと思うが、方策は様々あると思うので頑張って頂きたい。	4

基準4. 学修成果

コメント	評定
・一般教養的な知識が将来の人間力になるはずであり、社会的評価に繋がるのではないだろうか。 ・各種検定や資格取得を科目時間数として認定する制度は、学生の意識向上に繋がると言える。 ・就職率についてはより高い数値を目指せるよう、入学時からのキャリア教育にも注力しながら、志望職種の視野拡大や関連職種の提示等、キャリアサポートセンターとの連携を深めて頂きたい。 ・業界全体での就職率に関して、今年度は難しいことが内外ともに理解出来ている。資格取得も良いが、在学中からの現場実習の機会を増やすようにお願いしたい。 ・今年度はコロナ禍の影響で学生の就職活動が相当厳しい状況であり、卒業後も進路が決まらない学生が増える可能性がある。キャリアサポートセンターも学生の就職支援を行っているとのことであるが、このような状況であるので、教職員とキャリアサポートセンターとの連携をより密にし、協力し合う必要があるのではないだろうか。企業側としては資格取得というものは絶対的なものではなく、真面目な学生を希望している。 ・高校の就職状況も同じく大変であり、現在どの業種が安定しているのか見極めて、学生の希望も取り入れながらより丁寧に指導する必要がある。 ・就職率は大切だが、このコロナ禍における流れは厳しいとは思われる。しかしながらこれが改善された時に、企業は直ちに人材を求めて来ると思われるので、それまで実力を作る期間だと思って欲しい。	3

基準5. 学生支援

コメント	評定
・大人になりきれていない若者が増えている中で、早急な就職指導ではなく、将来社会人としての人間教育が必要である。 ・行政的には難しそうだが、卒業生や就職浪人を対象とした研究科(夜間部)の設置も考えてみてはどうだろうか。 ・在学中における留学生のサポート及び卒業後の就労を含めたサポートは充分行われている。また今後は日本人応募者の減少や留学生の減少を見据えて、中途退学者の低減にも繋がる経済的・精神的サポート等の支援体制を、より拡充させなければならない。 ・学生支援に関してもコロナ禍で非常に大変な状況であることは理解出来る。 ・学生が不安にならないよう、可能な限り教職員が多く見渡してあげて欲しい。 ・オンライン面談等も取り入れてはみては如何だろうか。 ・留学生はコロナ禍の影響により卒業後に母国に帰国することが出来ないケースもあり、就労先も無い状態に陥る者も多いと考えられる。そこで国の問題ではあるが、母校として対応出来る施策として、留学生の卒業後の立場を考えていかなくてはいけない。 ・特定の学生が観賞出来る映像コンテンツ、若しくは時間外でも自主的に勉強出来る環境が更に必要かも知れない。	3

基準6. 教育環境

コメント	評定
・Web 教育に必要な設備の充実が肝要である。(教育データを常時学生がダウンロード出来るアーカイブの作成等。) ・キャリアサポートセンターとの連携を緊密に取ることが肝要である。 ・校舎内リニューアルによるロビースペースの確保や、全教室にプロジェクターの設置等、今後の学内環境の整備には期待したい。 ・インターンシップに関しての学校側からの発信は未だ充分だとは言えない為、協力企業へのアプローチを早急に進める必要があると言える。 ・インターンシップに関して企業への働き掛けが昨年同様少ないと感じる。 ・学生のインターンシップ現況(いつからいつまでどの会社に出向いているか)について教職員全体で可視化出来ると良いと思われる。(可能であれば学生にも可視化出来れば尚良い。) ・インターンシップに関しては内定後研修のスタイルが多く、就業体験主体のものが少ないのが現実である。またこのコロナ禍でインターンシップの実施を自粛している企業もある。学校とキャリアサポートセンターとが連携して進めていく必要がある。 ・高校でも同様であるが、現在の教育活動では ICT の活用が必至であり、特にこのコロナ禍の影響で学生の密を避ける為にも、分散して授業が行える ICT 及びプロジェクター映像設備の設置が必要である。 ・安全管理を第一に、コロナ対策も含め徹底をお願いしたい。	3

基準7. 学生の募集と受入れ

コメント	評定
・学生募集に関する紙資料(PowerPoint 等)は希望者限定に配付し、Web サイト(LINE 活用、フォロー)を主体として行った方が良い。 ・地方でのオンライン説明会が好評で、応募者数を例年並みに確保出来たことは、今後の募集活動の方向性が見えてきたと言って良いだろう。 ・学生がオンラインで気軽にアクセス出来るようであれば、パンフレット等資料のペーパーレス化へ向けての取り組みも加速出来そうである。 ・コロナ禍により苦労が多いかと思われる。 ・エンターテインメント業界も節目を迎えているとは思うが、確実に継続していく業種である。 ・留学生に関して、入国自体も難しい状況下において今期の学生募集は難しい局面だと思われるが、来期以降を見据えた準備をしておく必要もある。 ・今年度はコロナ禍の影響により地方での学校説明会を開催出来ず、地方の高校生に対してはオンラインによる相談が主流になっているとのことである。毎年多くの学校案内を冊子で作成していたが、この状況から今後も同じように冊子が必要なのかを考える時期になって来たと思われる。 ・高校の進路指導をしている中で知り得たことであるが、現在は学校案内を全て WEB のみにしている大学が増えて来ている。早急に紙媒体を全て無くすことは難しいと思うので、冊子は必要最低限の内容にして WEB と併用して行くハイブリッド的なやり方も考える時期かと思われる。 ・SNS を更に有効活用した方が良いかと思われる。	4

基準8. 財務

コメント	評定
・収支のバランスは取れており、中期事業計画や単年度事業計画も適宜策定されている。財務基盤は安定していると言えよう。 ・自己評価報告書より収支バランスや借入金が無いことから、財務基盤は安定していると判断出来る。 ・財務状況は問題無いかと思われる。	4

基準9. 法令等の順守

コメント	評定
・自己評価ならびに学校関係者評価の体制も整備され、評価結果も公開されており、適正な学校運営を行っている。 ・自己評価報告書より関係法令等に基づく適正な学校運営を行っている。 ・順守されていると思われる。	4

基準10. 社会貢献・地域貢献

コメント	評定
・東京オリンピックのボランティア参画を通じた国際交流は難しいだろうか。 ・PA、セッティングを目的とした地域施設への訪問は如何だろうか。 ・先ずは地域との関わりを重視して、学校周辺のクリーンアップや留学生との国際交流の場を具体的に、且つ継続的に進める事が大切だと言える。 ・校舎やホール等の施設・設備を貸し出すのは良い取り組みでもあり、今後は更に学校の特色を活かしたエンターテイメントに特化した発信をもっと積極的に行って頂きたい。 ・具体的な活動支援が有るのであれば、一覧にして全員で共有出来ると良いと思う。 ・東京都高等学校軽音楽連盟の大会会場に施設を提供、埼玉県の高校音楽教師向けに音楽室のオーディオ環境に関する研修会を実施する等、社会貢献・地域貢献を行っているとのことである。また留学生を多く迎え入れていることで国際交流にも取り組んでいると言える。 ・ボランティア活動を今後は更に広げても良いと思う。	3

Ⅲ. 所感

コメント
・本年度は社会全体が新型コロナウイルス感染症の影響で、未知の対応を強いられたが、その中で学校も従来の経験を活かせず、手探りでの学生対応・授業体制の変化等、非常に苦しい状況にあったと思われる。その中でもオンライン授業で得たメリット・デメリット（学生の授業内容理解度、学生と教職員との距離感等）を、次年度以降も分析しながら新たな授業スタイルの完成形を目指して欲しい。 また普段は遠方に住み来校が難しい講師やゲストによる特別講義のような形で、魅力あるカリキュラムの創出も考えて頂きたい。 ・本年度に体験して工夫した事や方法・新たな発見等は今後の学校運営の中で必ず活かされると思うので、『ピンチはチャンス！』と前向きに捉え、確実に進めて行って欲しい。 ・学校関係者評価委員 2 期目での意見書はとても重要だと思うが、やはり昨年度より端折った感のある会議となり、外部の人間として意見を求められることは正直難しい。 ・「4～1」の数的評価をすることは更に難儀であった。 ・教職員が今後の東放学園音響専門学校として役立たせていただくための資料になって欲しい。 ・今般のコロナ禍における評価は難しく、教職員一人ひとりが本当に苦労していると思われる。今後人材を受け入れる業界側も頑張り所である。 ・コロナ禍に対しての対策や現状報告のようなディスカッションを更に出来れば良いと感じた。 ・今年度は新型コロナウイルスの影響により様々な面で今まで予想していなかったことに直面している。どの学校においてもこのコロナ禍に対応しなければならない課題が多くなっている。その対応のスピードが学生やその保護者への信頼に繋がることだと感じる。更に来年度以降進学を考えている高校生にも影響して来ると考える。高校も同様であり、オンライン授業やオンライン連絡体制等、休校になった場合や密を避ける対応が必要になった時に、慌てることなくスムーズに対応出来る体制を整えておく必要がある。 ・今回はコロナ禍の影響によりその対応等に重点を置いた会議であったが、昨年度の重点目標の項目で取り上げられていたドロップアウト撲滅の取り組みに関して貴校がその後どのような取り組みを行っているのか聞きたかった。ドロップアウト問題をどのようにして解決の方向に持っていくのか関心がある。今後もドロップアウト減少の取り組みに積極的に協力出来るよう情報共有をしたいと考えている。 ・今年度の会議は 1 回のみの為、充分意見を出せたとは言えないが、今後も色々と協力出来ることはしていきたい。

以上